

日清製粉グループ 連結決算、次期連結業績予想

[平成30年3月期連結決算]

売上高 5,400億94百万円 (前期比101.5%)
経常利益 318億円 (前期比104.8%)

㈱日清製粉グループ本社(社長:見目 信樹)の平成30年3月期につきましては、企業収益や雇用・所得環境の改善、設備投資の増加等により景気は緩やかに回復しましたが、一方で、人手不足や消費者の節約志向の継続、不安定な海外情勢等の懸念材料も見られました。

このような中、当社グループはコア事業の収益基盤の再構築、着実な利益成長、株主還元強化を柱に経営計画「NNI-120 II」を推進し、各事業において、製品・サービスの高付加価値化と販売拡大、コスト競争力強化と安全・安心の両立、成長分野への戦略投資等、スピード感を持って成長戦略の実行に取り組みました。

当期の業績につきましては、売上高は、前年に子会社の株式譲渡を行い連結対象外となった影響はあったものの、加工食品事業における中食・惣菜の出荷増やエンジニアリング事業における大型工事の受注等により、5,400億94百万円(前期比101.5%)となりました。利益面では、生活者のニーズにあった高付加価値製品の出荷拡大、コストダウンをはじめとした収益向上施策により、営業利益は272億円(前期比106.6%)、経常利益は318億円(前期比104.8%)、親会社株主に帰属する当期純利益は213億39百万円(前期比109.6%)と、いずれも過去最高となりました。

また、株主還元の一層の積極化を図り、100億円を上限とした自己株式取得を行いました。

当期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向を40%以上とする経営計画の基本方針のもと、前期より3円増額の1株当たり年間29円を予定しております。

[平成31年3月期通期連結業績予想]

平成31年3月期の業績見通しにつきましては、売上高は5,650億円(前期比104.6%)、営業利益は275億円(前期比101.1%)、経常利益は320億円(前期比100.6%)、親会社株主に帰属する当期純利益は220億円(前期比103.1%)としております。

次期の配当につきましては、上記の利益配分の方針を基準とし、当期よりさらに3円増額の1株当たり年間32円を予定しております。これにより、実質的に6期連続の増配となる予定であります。

[長期ビジョン「NNI “Compass for the Future”」による新たな取組みのスタート]

当社グループは、今後、更なる複雑化・高速化が予想される社会全体の10年後、20年後の構造変化を見据え、長期ビジョン「NNI “Compass for the Future” 新しいステージに向けて～総合力の発揮とモデルチェンジ」を策定し、新たな取組みをスタートしました。これを未来への羅針盤として、現在取り組んでいる2020年度を最終年度とした経営計画「NNI-120 II」を通過点に、ニュー・ニッシン・イノベーション活動を推進してまいります。

長期ビジョンにおきましては、当社グループが目指す将来のグランド・デザインの実現に向けて、グループの「総合力」を発揮する仕組みを構築するとともに「顧客志向」を改めて徹底し、「既存事業のモデルチェンジ」及び「グループの事業ポートフォリオ強化」を柱に成長戦略を推進し、また、それを支える経営機能の一層の強化等を図ります。収益レベルをさらに引き上げるべく取り組み、“未来に向かって、「健康」を支え「食のインフラ」を担うグローバル展開企業”として、「国内食品業界における確固たる地位」を揺るぎないものとしてまいります。

以上